

## 木曾川、飛騨川の水の源・御嶽山

上流は下流を思い、下流は上流に感謝する交流連携を！

“森は水の源、水は命の源、川は命のつながり”

☆5月22日(土)午後1時30分から「ソーネ・おおぞね」ホールで、みんなの会の第11回総会を開催します。会員の皆さん、ご参加ください。

続いて、午後2時半過ぎから木曾川上下流交流・連携の集いを行います。

総会では①2019年度、2020年度活動報告 ②2019年度、2020年度会計報告(収支決算) ③「木曾川流域水源の里基金」の報告と今後の運用について ④2021年度活動計画 ⑤2021年度予算などについて、報告・提案します。

続いて、午後2時過ぎから木曾川上下



流交流・連携の集いを行います。上流からは小池糰店(木曾町)・唐沢尚之さん、木祖村観光協会・圃中登志彦さん、下流からは日進市議・山根みちよさんに発題していただきます。“現状と交流連携のこれから”について、話し合いながら深めていきます。ご参加ください。

参加費は資料代などで800円です。よろしくお願ひします。

コロナ禍の影響が見通せませんが、今年度も下流域から上流へ出かけて「大豆づくり・味噌づくり」、様々なイベントへの参加と「木曾川流域水源の基金」のための物販に取り組みます。木曾青峰高校の生徒さんたちには名古屋市科学館への「木のおもちゃ作り」に次年度も取り組みをお願いします。

飛騨川流域へも出かける機会を増やしたいと思ひます。また、毎年開催される千種区鍋屋上野浄水場での「なごや水フェスタ(6月6日・日)」や「今池まつり(9月)」を取り組みます。

上流域での新しい取り組みや試みに心を寄せ、出かけて交流や共同の取り組みを積極的に考えていきます。(近藤)



ソーネ・おおぞね  
名古屋市北区山田町 2-11-62  
大曾根住宅 1棟 1F  
TEL:052-910-1001

## 木の國・木曾町 原町長に寄稿していただきました

毎月発行されている広報「きそまち」の2021年1月号に原町長の「新年のごあいさつ」が掲載されています。その中に新しい庁舎ができること、その「箱」に魂を入れることが述べられています。フランスの思想家の6つの重大な転換について紹介し、これらの変化を私たちが民主的に実現できるなら、危機は私たちの文明を救済し、大いなる転機となると記載。その「新年のあいさつ」に触発されて、新庁舎への「魂」「思い」などを原町長にお願いしました。多忙の中で原稿をお寄せいただき、心から感謝申し上げます。(河崎)

## 伝統的建築工法を現代化した

## 木造平屋建て新庁舎が完成

みんなの会のみなさんには日頃からたいへんお世話になりまして心から感謝を申し上げます。



新庁舎建設の思いは、みんなの願いとしてありましたが、合併したての町としては他にやるものがたくさんあり、庁舎は一番最後という位置づけでした。私が町長に就任してから、御岳山の噴火災害が起こってしまったり、継続事業があったりとやはり手を付けるべきかどうかたいへん迷いました。ただ合併自治体への特例として有利な助成制度（合併特例債）があり、その期限内に使わない手はないのではないかとこのことをテコにして庁舎建設は具体化しました。庁舎建物をつくるにあたり、できる限り町産材を使用したい。地元

の木がこういう風に使えるということを見せたい。集成材ではなく無垢材として使いたい。そして自慢できるものにしたい。そんな思いからスタートしました。木曾といえば桧、木曾五木で知られていますが、木曾町の森林は戦後昭和30年代に先人が苦勞して植栽されたカラマツ林が主なものです。そのカラマツが約60年生となり、あと20年もすると立派な用材として世に出せるところまで来ています。庁舎にもカラマツ材をたくさん使って、山林所有者はもちろん利用するみなさんにも良さを認めていただき、山にもっと目を向けてほしいそんな願いもありました。

令和3年1月末に木曾地域の伝統的建築工法である『出し梁造り』を現代化した長さ108mの木造平屋建て2,500㎡余りの新庁舎が竣工しました。ぜひ直接ご覧いただきたい建物です。木の國・木曾町としてアピールするため

設計も公募型を採用して、全国から204もの応募をいただき多様な将来像を提案いただき出来上がったものです。森林所有者から木材をご寄付いただいたりと、この庁舎が出来上がるまでには、町内外のたくさんの方からお力をいただきました。子供たちにもいろいろな形がかかわっていただきました。みんなの思いをこのような素晴らしい形に創り上げていただいたみなさんに心から感謝をしています。令和3年4月5日開庁、町民のみなさんが自慢する場所にしていく決意です。(木曾町長 原久仁男)



「photo Kenya Chiba」

# 4月17日 春の蔵開き・まちびらきイベント

毎年4月に木曾町ある2つの酒蔵（七笑酒造、中善酒造）と当店・小池糀店が連携して蔵開きイベントを開催してきました。年々訪れて下さるお客様が増え、町の主なイベントの一つになるほどまでになりました。当店でも当日は、糀造りや伝統味噌玉製法の説明をし、お店前ではお味噌や甘酒、当日限定の味噌パンなどの販売を従業員総出で、大変賑やかな一日です。

ところが、去年はコロナ禍になってしまい急遽中止になりました。学校休校や緊急事態宣言中などもあって、どうしても開催することは難しいとの判断からの決断でした。

1年がたち、あまり状況の変化があるわけではないのですが、実行委員会で何回も話し合い、このままイベントを中止、中止としていたら町から活気もなくなるし、せっかくここまで積み上げて大きくなったイベントも途絶えてしまうのではないかとの思いから、縮小形式にはなりますが開催することが決まりました。（今後の状況次第では変更もあります）

例年通りの各蔵見学等の開放は行いませんが、ちょうど4月5日に新庁舎が開庁する木曾町役場を会場にして3蔵のお味噌やお酒、甘酒、そしてパンやお菓子の販売をします。「蔵開き・まちびらき」をテーマに、発酵の町から発信することと、木の國・木曾町の象徴になる木曾町庁舎の見学も出来ます。原町長が「箱だけがあっても意味がない。箱に魂を入れて生かすことが重要だ」と言っておられました。この蔵開き・まちびらきは、それこそ魂を入れる最初のイベントになると思います。大きく宣伝できないのが残念ですが、小規模になったとしても来年以降へ繋がればと思っています。会場は木曾福島駅から徒歩2分です。（小池糀店 からさわ）

今年、新庁舎で蔵とまちびらき!

今年も新しいお酒が出来上がりました。皆様が喜びとともに、心豊かな時間を過ごせますよう心を込めて醸しました。従来の形式の蔵開きは今年も行えませんが、木曾町の新庁舎を会場にはっこの町きそまちを体験してください。ささやかながら当日限定の3蔵のどっおき蔵開きセットをご用意しました。すまマルシェでは限定企画パンやお菓子セットもご用意しております。作り手の方々の渾身の品々を是非ご家庭でお楽しみください。

前回お見逃しの方必見  
新庁舎見学  
できます

信州 木曾町

春の蔵びらき  
まちびらき  
新庁舎 2021

2021. 4.17 (土) 10:00~15:00

会場: 木曾町役場 新庁舎敷地内 主催/蔵びらき実行委員会 後援/木曾町

※売り切れ次第終了/庁舎見学は15時まで(セキュリティの都合上、事務室以外の見学となります)

## 楽しく料理! ? 「おままごとキッチン」を科学館に贈呈

今年度も木曾青峰高校インテリア科3年の女子高校生3人が、共同で木製のおもちゃを制作しました。3人の制作動機は「子どもたちが楽しく安全に遊べるおもちゃ」です。その作品名は「おままごとキッチン」=次頁写真=です。この作品を2021

年2月10日午後1時半から名古屋市科学館で贈呈しました。コロナ禍のため3人の高校生が参加できないので、みんなの会が代行しておもちゃを贈呈し、科学館からの感謝状を受け取りました。その感謝状は2月25日に学校へ届けました。

贈呈式では、額縁館長から「立派な作品で綺麗



に仕上がっている。3人に直接お礼を伝えたいが、よろしく言っていたきたい」とお褒めの言葉がありました。

リモートでインテリア科の早川先生と木曾広域連合地域振興課の大島さんが参加しました。早川先生は、全て作品づくりの鍋の深さに作っていくところやマジックテープでカレーのルーや肉、野菜をつなげて実際に包丁で切っているところ、スイッチを回すと音が出る工夫など、苦勞した点や楽しみ方を話されました。

現在までに科学館には、木曾青峰高校インテリア科の高校生が制作した25の木製玩具が贈呈されています。次年度も引き続き、高校生に木製おもちゃの作成を依頼していきます。(かわさき)

今年も大豆作りを始めます！木曾川源流の里・木祖村の畑で会いましょう！

## 大豆作り・味噌造りを一緒にやってみませんか

～「みんな・みんな楽作隊」に、ぜひご参加ください～

木祖村における大豆作り・味噌づくりを始めて今年で11年目になります。

思い起こせば丁度10年前、「高原荘」の笹川さんと出会い大豆作りの第一歩を踏み出した日のことを昨日のように思い出します。

大豆作り・味噌づくりは木曾川の恩恵を受けている下流域に住む私たちが“上流へのまなざし”を向けること、そして上流へ出かけることによってお互い“顔の見える繋がり”を持ち、私たちにとって行きつけの場所を作ることです。

10年間続けてきて、中山間・高冷地での大豆作りは苗がうまく成長しなかったり、鳥獣による被害、温暖化の影響も幾度か思い知らされました。

しかし夏の暑い日でも、木陰に入れば清々しい風が心地よく、収穫をして殻たたきを行った大豆の入った重い袋を持つと、苦勞が吹き飛びます。

出来た大豆は木曾町の小池糶店にて、こだわりの伝統的な“玉造り製法”の味噌となじみやすい突き込み製法で造っていただいています。小池糶店の糶の原料も有機栽培のお米です。

「玉造り製法」は一般的な「突き込み製法」にもうひと工程かける“二段階発酵”ともいえる造り方で、手間と時間がかかることから今日では、ごく少数の生産者が守り続けているのです。



脱穀機による脱粒作業＝2020年11月14日

私たちの大豆作り・味噌づくりは木曾川の上流交流・連携の具体的な取り組みの一環であり、私たちの生活・社会のありようを問うものにもなっています。

作る人、加工する人、消費する人、これらの人び

とがつながりあってお互いに見える関係が作られ、を木曾川流域で作り出していきたいと思いついて  
その中で“あたたかいお金”による「小さな経済」 います。

## ～今年の大豆作りの日程は以下の通り～

5月 29(土)～30日(日)	大豆種まき
6月 19(土)～20日(日)	大豆の苗の定植
7月 10(土)～11日(日)	草取り
7月 31(土)～8月 1日(日)	味噌の天地返し 草取り
8月 28(土)～29日(日)	草取り 赤かぶの種まき
9月 25(土)～26日(日)	稲刈り体験
10月 23(土)～24日(日)	大豆収穫
11月 13(土)～14日(日)	殻たたき

☆みんな・みんな楽作隊 年会費 5千円(交通費、保険料込) ☆問い合わせ・連絡先:みんな・みんな楽作隊担当 近藤 進 携帯:090-4150-6156 E-mail: [kondou2052@gmail.com](mailto:kondou2052@gmail.com)

## 遺伝子組み換えより危険なゲノム編集のトマトが登場

～種苗に遺伝子操作の表示を求める署名にご協力ください～

ゲノム編集という新たな遺伝子操作技術で作られた作物が日本にも登場しました。筑波大学発のベンチャー企業「サナテックシード社」が開発した高GABA(※)トマトです。昨年12月に厚生労働省が同社からの「届け出」を受理しました。ゲノム編集食品については「みんな・みんな会員だより」28号(2019年10月28日発行)でも指摘しているように、国による安全性審査もなければ、表示義務もありません。開発企業が国に届け出るだけで販売が認められます。

日本政府や開発企業、推進派の学者たちは、ゲノム編集を「狙った遺伝子だけを壊す」「遺伝子を壊すだけで、自然界で起こる突然変異と変わらない」「遺伝子組み換えとは違う」などと吹聴していますが、いずれも出鱈目の主張です。標的以外の遺伝子を壊してしまう、いわゆるオフターゲットは必ず起きるし、自然界で起こる突然変異とは異なる遺伝子の変化を生み出すことも指摘されています。欧州司法裁判所は2018年にゲノム編集に遺伝子組み換えと同様の規制の対象となる判断を下しており、市民の間では「新しい遺伝子組み換え(New GMO)」と呼ばれています。科学ジャーナリストで遺伝子組み換えやゲノム編集に詳しい天笠啓祐さんは、遺伝子組み換えは一つの遺伝子を組み換えるが、ゲノム編集は遺伝子全体に介入するため、よりスケールアップした危険な遺伝子操作技術だと警鐘を鳴らしています。

ゲノム編集トマトが商品として市場に出回るにはもう少し時間がかかると言われていますがサナテッ



サナテックシード社前で抗議する市民=2020年12月23日、東京都港区虎ノ門で

シクシード社がゲノム編集トマトの苗を無料配布（5月中旬から6月中旬にかけて発送予定）するとしています。家庭菜園などで栽培されたら、知らないうちにゲノム編集トマトが広がり、食卓にのぼってしまう可能性もあります。日本消費者連盟は3月から種苗に遺伝子操作の表示を求める署名を始めました。ご協力をお願いします。

詳細は日本消費者連盟のホームページをご覧ください。（日本消費者連盟 額額美千世）

※GABA＝アミノ酸の一種で、血圧を下げる機能があるとされています。

## ～紹介します！中村医師の絵本『ナナ・カムドーナカムラのおじさん』～

「季刊地域No.41号（2020年春号）、42号（夏号）」（農文協）にペシャワール会で医師・中村哲さんの追悼企画として「アフガニスタンの平和は『水』でしかつくれない」と題する文章が掲載されています。書いているのは2002年から3年間現地で、中村さんと用水路建設や農業支援の活動をした橋本康範さんです。

橋本さんは“中村先生は徹底した現地主義を貫き、「モノのない現地に合わせて何とかする」方法で用水路建設を進めた。特に、「手近な素材を使い、地域にないものをできるだけ持ち込まない」「壊れても地域の人で修復できる」ことが心がけられた”と述べています。

私が、アフガニスタンでの用水路建設、農業づくりの話の中村さんから直接聞いたのは、3年ぐらい前で、岐阜県各務原市で行われた集会でした。映像をバックに核心を持って語る中村さんの人となり、思想に魅了されました。

最近出された絵本を紹介します。中村哲医師、その功績を後世に伝えるために現地で刊行された絵本の日本語版で、書名は『ナナ・カムドーナカムラのおじさん』（双葉社、2020年12月刊、1,500円＋税）です。

「平和には戦争以上の力があり、平和には戦争以上の忍耐と努力がいる」と中村さんが繰り返し語っていた言葉です。この本の中に「祖母と聖書の教え」のところがあります。

祖父は玉井金五郎さん、祖母はマンさん。若松で石炭を港に積み込む事業をしていました。

玉井さんは「弱きを助け、強きをくじく」が信念で、「どんな小さな命も尊ばなければならない」と祖母から繰り返し教えられたそうです。中村さんは中学時代にキリスト教と出会いました。盲目の牧師さんを先生と仰いで、人生や社会、宗教など、いろいろな事を語り合いました。

中村さんはキリスト教徒のあり方を「当たり前の人として、今をまっとうに生きようとする事である」と。（かわさき）

### ☆☆☆第11期木曾川流域

### 水源の里基金へ募金の

### ご協力をお願いします☆☆☆

<郵便振込口座>

口座番号； 00810-1-158556

加入者名； みる・みるの会

（水源の里基金と記してください）

水源の里を守ろう

木曾川流域みる・みるの会

☆共同代表☆

河崎典夫、伊澤眞一（名古屋生活クラブ）

☆顧問： 斎藤まこと（名古屋市議）

山根みちよ（日進市議）

☆連絡先☆ 〒464-0075

名古屋市千種区内山3-7-11 斎藤事務所気付

TEL 052(745)1001 FAX 052(741)2588

HP: <http://www.kisogawaminmin1.net/>

e-mail: [suigennosato@gmail.com](mailto:suigennosato@gmail.com)